

認知言語学から見た『紅樓夢』前八十回
における形容詞重疊式
—基式との関わりを中心に—

胡 春艷

A Study of Adjective Reduplication in *A Dream of Red
Mansion* from the Perspective of Cognitive Linguistics:
The Relationship between Adjective Reduplication and the
Based Adjective Patterns as the main study

HU Chunyan

摘要

重疊是漢語中具有代表性的語言手段, 主要以形容詞重疊和動詞重疊為主。本稿以《紅樓夢》前八十回為範圍, 以其中的形容詞重疊式為研究語料, 在對其基式語義和重疊式語義作出分析的基礎上, 總結了兩者的關係。並從搭配、語義的描寫和限定、使用的場合等方面對基式(性質形容詞)和重疊式(狀態形容詞)進行了比較, 抽象出“個”與“類”的概念。在此基礎上, 通過認知語言學的空間化理論, 揭示了從基式(性質形容詞)到重疊式(狀態形容詞)的認知過程, 並從說話人視點的角度進一步闡述了性質形容詞和狀態形容詞的特點。

キーワード: 性質形容詞 状態形容詞 空間化 個 類

はじめに

『紅樓夢』は清代白話小説の代表作として、近代中国語から現代中国語への過渡期に位置付けられ、北京官話を基礎方言として、当時の華北地方を中心とする北方地方の言語実態を反映する。本稿は『紅樓夢』前八十回を言語資料として、形容詞重疊式

を研究対象とし、重畳式と基式¹⁾の関係を整理する。認知言語学の観点から、空間化の仮説を提案し、基式(性質形容詞)と重畳式(状態形容詞)に関する類と個の問題を説明し、話者の視点から検討を行う。

1. 『紅樓夢』前八十回における形容詞重畳式

『紅樓夢』前八十回における形容詞重畳式のパターンはAA式、ABB式、AABB式などがあり、豊富で多様である。胡春艶(2021a)(2021b)(2022a)の考察のうえで修正した結果、『紅樓夢』前八十回におけるAA式形容詞重畳式は、異なり語数132、延べ語数541であり、ABB式形容詞重畳式は異なり語数64、延べ語数123であり、AABB式形容詞重畳式は、異なり語数は91、延べ語数は156であり、数量が膨大である。李宇明(2000a:80、91、93)は、AA式、AABB式を“完全復疊”と呼び、ABB式を“不完全復疊”と呼ぶ。本稿は主に基式と重畳式の関係に注目するため、以上の重畳形式にかかわらず、形式上、AA式に対してAを基式と見なし、ABB式に対してAを基式と見なし、ABからなるAABB式にとって、ABを基式と見なす。

2. 基式と重畳式の関係

基式と重畳式を、形態的特徴から以上のように扱い、本節では意味の分析を行い、両者の関係を解明する。意味の面で、両者の意味の拡張のプロセスを問うことをせず、辞典に記述される項目について比較する。

2.1 基式の性格

形容詞重畳式にAA式は最も早く出現し、清代以前においては、「重言」「重語」「複字」などの呼び方が行われている。Aが語として単独に使用できるかどうか、呂叔湘(1942/2002:9)は、「疊字は、前人のいわゆる『重言』であり、形容詞において最も多く、二種類に分けられる。重畳しないと使えない語は第一類に、重畳しなくても使える語は第二類とする。“翩翩、盈盈、巍巍、累累、喋喋、津津、孜孜、喃喃、諾諾、諤諤、熙熙、攘攘”等が第一類の語であり、“緩緩、密密”が第二類の語である。」と述べる。石録(2010:34)は、AA式の基式を単音節状態形容詞と単音節性質形容詞に分けると指摘している。本稿は、呂(1942/2002)の第一類を「AA式重言」といい、第二類を「AA式重畳」と称する。『紅樓夢』には擬古的表現形式の“詩”“詞”“歌”“賦”が多く使われ、その中に「AA式重言」も「AA式重畳」も多く使用される。

ABB式の基式Aについて、胡春艶(2021b)は、Aを形容詞語素、名詞語素、動詞語素に分ける。たとえば、「白漫漫」の“白”は、形容詞語素であり、「油汪汪」の“油”

¹⁾ 石録(2010:1)は「被重疊的基礎形式叫基式;重疊出的新形式叫重疊式。(重ねられる元の基礎形式は、基式と呼ぶ。重ねた新形式は、重畳式と呼ぶ。)」と指摘している。

は名詞語素であり、“笑嘻嘻”の“笑”は、動詞語素である。基式と重畳式の関係性を明らかにするため、品詞の枠組みで考察すれば、両者の関係性が明瞭になると考えられる。

2.2 基式と重畳式の意味関係

李宇明（2000b：330）は、重畳式の意味を判断する方法について、基式と重畳式の意味を比較し、両者の異なりを形成する部分が重畳式の意味と見なされると指摘している。

『紅樓夢』における形容詞重畳式の基式と重畳式の間接的関係を、意味の面で総括してみると、以下の分離のタイプ、融合のタイプ、包含のタイプに分けられる。

① 分離・独立のタイプ

このタイプでは、基式と重畳式は意味の面で、つながりがない。以下に『紅樓夢』における例文を挙げる。

1) 翦翦舞隨腰。煮芋成新賞，（第50回：p.670）

例1) “翦翦”は「形容風輕而帶寒意。（軽くて肌寒い風を形容する。）²⁾」という意味である。“翦”の意味は、「①割斷。②剷除。③鉸（後起義）。④姓氏」（王力（2000）《王力古漢語字典》）である。基式の意味はどの項目でも重畳式の意味とつながりがないと窺える。

更に次の例を見られたい。

2) 至晚間對燈出了一回神，至三更以後上床臥下，兩眼鰥鰥，直到五更方才朦朧睡去。（第48回：p.651）

鰥鰥：①因愁悒而张目不寐貌。②张目直视貌。（汪維懋（1999）《漢語重言詞詞典》）

鰥：①一種大魚。②老而無妻。（《王力古漢語字典》）

字典の項目からは、基式と重畳は意味の面でつながりが見られない。第48回注に「鰥：一种大鱼，其性独行。其字从鱼，鱼目常睁不闭，故常用“鰥鰥”形容憂愁失眠的樣子。」と解釈する。鰥という魚の目が閉じていない特徴から連想し、悲しくて眠気を帯びている様子を表すと述べる。しかし、意味の項目からみると、基式と重畳式は分離・独立のタイプに属する。

② 一部融合のタイプ

一部融合のタイプは、基式と重畳式の意味が一部共用されることである。

²⁾「(前八十回)曹雪芹著(后四十回)无名氏續 程伟元 高鶚整理(2008)《紅樓夢》人民文學出版社」の注に拠る。以下の注は同じ。

- 3) 纖腰之楚楚兮, 回風舞雪, 珠翠之輝輝兮, 滿額鵝黃。(第5回 :p.72)
- 4) 鳳丫頭就是楚霸王, 也得這兩隻膀子好舉千斤鼎。(第39回 :p.520)

楚楚：①鮮明華美貌。②茂盛貌。③淒苦貌。

楚：①樹名, 落葉灌木, 即牡荊。②責罰人用的箠杖。③痛苦。④排列整齊貌。⑤鮮豔, 華美。⑥粗俗。⑦戰國七雄之一, 楚國。《王力古漢語字典》)

字典の項目から、重畳式の“楚楚”の第一項目と基式の“楚”の第五項目の意味は同じであり、一部融合のタイプに属する。例3)では、第5回に「原义为鲜明整洁的样子, 这里作纤细秀美解。」と解釈する。例4)は、「楚國」の意味を表す。

③ 包含のタイプ

包含のタイプは、基式と重畳式の意味関係において、一つが別の一つの意味をすべてカバーすることである。

- 5) 只見他裡頭穿著一件半新的靠色三鑲領袖秋色盤金五色繡龍窄裯小袖掩衿銀鼠短襖, 裡面短短的一件水紅裝緞狐賺褶子, 腰裡緊緊束著一條蝴蝶結子長穗五色宮條, 腳下也穿著鹿皮小靴, 越顯的蜂腰猿背, 鶴勢螂形。(第49回 :p.661)

短短：時間、空間相對很短。《重言詞詞典》)

短：長的反義詞。《王力古漢語字典》)

字典の項目から、“短”“短短”の意味は異なりがないように考えられるが、実際に、“短短”の重畳式として、基式を有しない描写性がある。“短”と“短短”の意味関係は、基式の“短”の類に、“短短”の個の意味を含んでいると見なされる。

① 分離のタイプでは、基式と重畳式が意味においてつながりがないことがわかる。

石録(2010:58)は、「確定重言詞的基式是否獨用, 以基式和重言詞的意義相同相近為準。僅僅是字形相同而意義上沒有聯繫的, 不是重疊關係。(重言詞の基式を単独に使用するか否かの判断は、基式と重畳式が同義・類義意味を持つという事実に基づいて行われる。字形が同じでも意味でつながりがないければ、重畳の關係とはいえない。)」と述べる。

①タイプは、ほぼAA式重言であり、基式と重畳式が意味でつながりがないため、重畳の關係と見なされない。②タイプと③タイプは重畳の關係と見なされる。本稿の研究対象は、基式は単音節形容詞、重畳式は状態形容詞³⁾であることから、意味の面からは②の融合のタイプと③の包含のタイプに注目する。

³⁾ 性質形容詞と状態形容詞は、(朱德熙 1956) “簡單形式”“複雜形式”の分類に拠る。本稿の状態形容詞は(朱德熙 1956) “重疊式”と“帶後加成分的形容詞”の二種類を指す。

3. 『紅樓夢』における基式（単音節性質形容詞）と重畳式（状態形容詞）の比較

3.1 コロケーション

性質形容詞と状態形容詞が名詞を修飾する場合、どのような異なりがあるのだろうか。朱徳熙（1956/1999:7, 8）は、性質形容詞が名詞を修飾する例として、“白紙”“白的紙”を挙げる。性質形容詞が直接的に名詞を修飾し、あるいは“的”と共に名詞を修飾する。数量詞がある場合、“一朵紅花儿”というコロケーションで、“紅（的）一朵花”というコロケーションは見られない。状態形容詞が名詞を修飾する場合、“雪白的紙”“一朵鮮紅的花”“鮮紅的一朵花”を挙げられると指摘する。

陸儉明（2001:9）は、形容詞と名詞のコロケーションについて、以下の例を挙げている。

雪白的鞋	* 雪白鞋	雪白一雙鞋
水汪汪的眼睛	* 水汪汪眼睛	水汪汪一雙大眼睛
好好儿的衣服	* 好好儿衣服	好好儿一件衣服

以上の現象に補足を加えると、“好好的一件衣服”“一件好好的衣服”の使用例もある。

陸儉明（2001:9）は、「状態詞作定語不帶“的”，如果不用數量短語，所形成的偏正詞組就不能成立。（状態詞が連体修飾語になる時に、「的」を伴わず、数量フレーズを用いなければ、形成される修飾フレーズが成立できない。）と解釈する。

以上のコロケーションをまとめれば、以下の六つのコロケーションが設定される。

- ①性質形容詞＋名詞 ②性質形容詞＋的＋名詞 ③数量詞＋性質形容詞＋名詞
- ④状態形容詞＋的＋名詞 ⑤数量＋状態形容詞＋的＋名詞
- ⑥状態形容詞（的）＋数量詞＋名詞

3.1.1 『紅樓夢』前八十回における形容詞と名詞のコロケーション

『紅樓夢』前八十回において、上記①～⑥のコロケーションはすべて存在する。「性質形容詞＋名詞」の①類は多く出現する。“大”を例に取れば、『紅樓夢』前八十回に、“大字”“大院”“大廳”“大轎”“大師”などの語彙が使用される。朱徳熙（1956/1999:9）は、「性質形容詞＋名詞」は語彙化の傾向があり、“頂大的大老虎”“小不釘点儿的小耗子”の例を挙げ、「性質形容詞＋名詞」の形式は「整体性」があると論明する。『紅樓夢』前八十回において、以下のような例文も存在する。たとえば、

- 6) 進入堂屋中，抬頭迎面先看見一個赤金九龍青地大匾，匾上寫著斗大的三個大字，是“榮禧堂”，後有一行小字：“某年月日，書賜榮國公賈源”，又有“萬幾宸翰之寶”。（第3回：p.43）

「性質形容詞＋的＋名詞」の②類は成立可能であるが、実際に使用する例は、ほと

んど見られない。性質形容詞の前には、常に程度副詞があり、名詞を修飾する。たとえば、

- 7) 昨日馮紫英薦了他從學過的一個先生，醫道很好，瞧了說不是喜，竟是很大的一個症候。(第 11 回 :p.151)

“一片大海”“一隻大船”“一陣涼風”“一對高几”ように、③類の例が多く用いられる。例えば、

- 8) 蜂腰削背，鴨蛋臉面，烏油頭髮，高高的鼻子，兩邊腮上微微的幾點雀斑。(第 46 回 : p.615)
- 9) 林之孝家的道：“他是園裡南角子上夜的，白日裡沒什麼事，所以姑娘不大相識。高高孤拐，大大的眼睛，最乾淨爽利的。”(第 61 回 :p.840)
- 10) 寶玉一面吃茶，一面仔細打量那丫頭：穿著幾件半新不舊的衣裳，倒是一頭黑鬢鬢的頭髮，挽著個鬢，容長臉面，細巧身材，卻十分俏麗乾淨。(第 24 回 :p.330)
- 11) 揀了一個小小的海棠凍石蕉葉杯 (第 38 回 :p.507)

“高高的鼻子”“大大的眼睛”のような④類もあるし、“一头黑鬢鬢的頭髮”“一个小小的海棠凍石蕉葉杯”“短短的一件水紅裝緞狐賺褶子”(例 5)の再掲のような⑤、⑥類も見られる。しかし、例 9)では、“高高孤拐”のように、状態形容詞は、“的”を伴わず、直接に名詞を修飾する例がある。胡春艷(2022b)は、「“的”をつけることにより、本来描写性弱化の AA 式の描写性が強くなる傾向があると考え。(中略)清代の『紅樓夢』は、古代中国語の韻文の語尾の省略があるとともに、現代中国語の「的」の必要性と一致しないことがあり、元明の“的”の多用と現代中国語の“的”の必要性の中間地帯(グレーゾーン)において、境界線が明確でないと考える。」と指摘している。すなわち、『紅樓夢』は、近代中国語から現代中国語への過渡期に位置付けられ、語彙の漸進的変化の時期に置かれていることを傍明する。

3.2 文法的意味 —— 限定と描写

朱德熙(1956/1999:7, 8)は、“白紙”の中で、“白”という属性を用い、“紙”の類名を限定し、“白紙”は新類名であり、状態形容詞は論及した事物の状況と性状を描写すると指摘している。

伊藤(2001:244, 256)は、朱(1956/1999)を踏まえて、性質形容詞は類名と結びついて新たな類名を作りだし、状態形容詞は個体を修飾する形容詞であると指摘している。

状態形容詞は、“摹状詞”（沈家煊，2015：647），“生動形式”（王力，1942/1985：298-299）とも呼ばれる。李勁榮（2014）は、形容詞重畳式の語用を“描繪性”“調量性”“凸顯性”とまとめている。周知のように、状態形容詞は描写性がある。

“短髮”“大船”“黃土”“涼風”“高聲”“高几”などは語彙化して、一つの単語として使用される。性質形容詞は属性として、ほぼ対極の面が存在し、他の類の区別として用いられる。たとえば、以上の例に対して、“長髮”“小船”“黑土”“暖風”“低聲”“矮几”などが存在し、性質形容詞は区別・限定の働きをする。

“高高的鼻子”“大大的眼睛”“黑鬢鬢的头发”“黃黃臉兒”“熱騰騰碧熒熒的綠畦香稻粳米飯”（第62回：p.858）などの状態形容詞は、対極の面が存在しても、意味上完全に対立するのではなく、区別の役割として使用されない。たとえば、“高高的鼻子”と“矮矮的鼻子”は対立するであろうか。“大大的眼睛”と“小小的眼睛”は対立するであろうか。“黑鬢鬢”は、何に対立すると考えられるであろうか。形容詞重畳式（状態形容詞）は、事象の性状を描写し、生き生きとした表現を構成する働きを担うのである。

3.3 使用場面

基式（単音節性質形容詞）と重畳式（状態形容詞）の例文によって、使用場面を比較してみることにする。

- 12) 賈璉聽如此說，又見鳳姐兒站在那邊，也不盛妝，哭的眼睛腫著，也不施脂粉，黃黃臉兒，比往常更覺可憐可愛。（第44回：p.594）
- 13) 那劉姥姥因喝了些酒，他脾氣不與黃酒相宜，且吃了許多油膩飲食，發渴多喝了幾碗茶，不免通瀉起來，蹲了半日方完。（第41回：p.555）
- 14) 只見他裡頭穿著一件半新的靠色三鑲領袖秋香色盤金五色繡龍窄袖小袖掩衿銀鼠短襖，裡面短短的一件水紅裝緞狐賺褶子，腰裡緊緊束著一條蝴蝶結子長穗五色宮條，腳下也穿著麂皮小靴，越顯的蜂腰猿背，鶴勢螂形。（第49回：p.661）（例5）の再掲
- 15) 蜂腰削背，鴨蛋臉面，烏油頭髮，高高的鼻子，兩邊腮上微微的幾點雀斑。（例8）の再掲
- 16) 我這一回去後沒別的報答，惟有請些高香天天給你們念佛，保佑你們長命百歲的，就算我的心了。（第42回：p.559）
- 17) 大門上門燈朗掛，兩邊一色戳燈，照如白晝，白汪汪穿孝僕從兩邊侍立。請車至正門上，小廝等退去，眾媳婦上來揭起車簾。（第14回：p.184）
- 18) 一時茗煙果請了王太醫來，診了脈後，說的病症與前相仿，只是方上果沒有枳實，麻黃等藥，倒有當歸，陳皮，白芍等，藥之分量較先也減了些。（第51回：p.699）

形容詞重畳式（状態形容詞）は、人物の容貌・みなりを描写することが多い。例 12) では、賈璉が鳳姐に謝る場面を描写し、賈璉の観察を通して、鳳姐の情態・様子を表す。例 14) では、史湘云のみなりを描写し、例 15) では、鴛鴦の容貌を描写する。また、場面・情景を描写することも多い。例 17) では、葬儀の手伝いで栄国邸に到着した鳳姐が見たその時の様子を描写する。提灯はどんな様子か、穿孝仆はどんな様子であるか、鳳姐の観察から生々しく描写する。その場の情景を目の前で見ているかのように、いかにも現実的な感じを与える。

形容詞重畳式（状態形容詞）に対して、基式（単音節性質形容詞）が名詞を修飾する時は、状況を説明する場合が多い。例 13) では、劉姥姥はなぜお酒を飲んで、下痢をするかを説明する。例 18) では、漢方薬の調剤を説明する。野田（2017:2）は「個別具体性の高い事象、すなわち特定の時空間に現れた特定の参与者（動作者、受動者など）の関わる具体的な動作・状態を表す出来事であればあるほど、その参与者、動作、状態の有様を状語で表現するのに重ね型形容詞を多用するのではないかというものである。」と解釈している。

性質形容詞が修飾する名詞はほぼ類名を表し、限定の働きをし、説明する場面において多用されるのに対して、状態形容詞（重畳式）が修飾する名詞は、個別・具体的な事象を表し、描写の働きを担うことから、生々しい場面における描写で多用される。

4. 空間化

4.1 空間化の定義

空間というのは、物理的現実空間と脳内の仮想空間に分けられる。前者はヒト、モノ、コトが真実に存在する容器として、認知される。これに対して、後者は人の認知から想定される仮想空間である。空間は、観察者が設定する容器のメタファーであり、観察対象の存在の基盤である。容器のメタファーとして真実に存在するかどうか問わずに、脳内に想定される。ただ、人間は現実の存在空間を認知空間として設定しがちで、そのとき両者は重なるのである。本稿の空間は、認知から想定される認知意味論としての「空間」である。

出現・存在・消失の過程を設定すれば、存在は出現と消失の中間地帯に位置付けられる。

すべての事象は空間を基盤として完成される。事象の発生・存在・消失、行為の開始・進行・完了、移動の起点・経路・着点、事象の性状などは、存在の空間がなければ、成立できない。空間を基盤とするには、まず、観察者（話者）と観察対象を設定することが前提であり、これによって、空間の形式（現実空間と脳内空間）が設定される。話者は、設定された空間に入って、観察者の視点を設定するプロセスに位置付けられる。

空間化というのは、観察者と観察対象によって、空間が設定されるプロセスである。

4.2 空間化から見た性質形容詞と状態形容詞

胡春艶（2021c）に基づくと、次のようにまとめられる。

形容詞は、性質形容詞と状態形容詞に分けられる。性質形容詞は、属性を表し、観察者の知識を通して、共通の認識になる場合が多く、現実の空間が存在しなくても、形容詞の性状は変わらない。よって、現実の空間が存在する必要はなく、空間化の容認度が低い。これに対して、状態形容詞、特に形容詞重畳式は、「イマ、ココ」の性状を描写し、即時に観察者の体験・感覚を通して、そのままの情景を描写する。描写される物事の存在が必須であり、存在する空間（容器のメタファー）を設定する必要がある。観察者は、カメラかビデオのように、物事とその空間に存在する性状を捉え、即時の情景を描写する。現実には存在しなくても、脳内空間に事象を存在させることで想像でき、あたかも目の前に存在するように思い描く。したがって、描写性があるかどうかについては、ヒト、モノ、コトの存在する場面（空間）を設定し、存在する対象を設定することによって、決定するといえよう。

胡春艶（2021c）は、状態形容詞の空間化の表現について、大島（2021：13-14）の動詞の空間化を踏襲し、「多様な事象の中から、一つの出来事を取り上げ、それをイマ、ココの具体的、個別的な性状として捉えると、その性状を持つ事象が存在する空間、つまり、性状が描写される主体が存在することを前提として、地点を設定し、背景（ground）すなわち情景とする必要が生じる。」と指摘する。形容詞重畳式は、状態形容詞の一類として、類を個体化する文法的手段として使用される。

4.3 基式（性質形容詞）から重畳式（状態形容詞）へのプロセス

空間化の見立てから見た、基式（性質形容詞）から重畳式（状態形容詞）への認知プロセスを、「紅花→一朵紅花（我的紅花）→一朵紅紅的花」を例に取って、説明してみよう。

第一段階は、類（通指 generic）の認知。陸儉明（2001:6）は、「所謂“名詞的通指”，是说句中的名词表示的事物的一个类名。（「名詞的通指」とは、文中の名詞が事物の一つの類名を表すことである。）」と指摘している。“紅花”は、類別として、“白花”“粉花”と区別される性質を持つ。このように、「性質形容詞+名詞」は裸名詞と同じく、類別を表す。「類」は人の知識による抽象的な概念として、脳内空間に概念の存在が確認される。知識に基づき、概念の抽象的なまとまりとしての類は、言語共同体にとって共通点がある。この認知過程は、人間の知識により類別の事象を設定し、現実には存在する空間を設定する必要がない段階である。すなわち、“紅花”は、現実には存在するかどうかは問わず、人間の脳内空間に共有概念として存在する。

第二段階は、実体化（具象性）の認知。「紅花→一朵紅花（我的紅花）」のプロセスは、第一段階の類の概念から、観察者にとって、実体化の事象として認知される。この段階は、類と個のグレーゾーンにあり、どちらとも認知される。たとえば、

- 19) 每個第一名的學生都可以得到一朵小紅花。（自作例）
20) 我的同桌得了第一名，老師獎勵了他一朵小紅花。（自作例）

例 19) では、“一朵小紅花”は賞品の下位の一種類として用い、例 20) では、話者と聞き手にとって、実体化が伴う事象である。この段階は脳内空間に存在する概念の類から現実存在する空間へ移行する。すなわち、空間化を設定する階段である。たとえば、例 19) では、空間はクラスか学年か学校かを設定し、例 20) では、机を同じくする二人が存在する空間（容器のメタファー）を設定する。例 19) から例 20) は、観察者から当事者へのプロセスであると言えよう。

第三段階は、個の認知。この段階は、「一朵紅花（我的紅花）→一朵紅紅的花」のプロセスである。空間に存在する実体から具体的な個体を抽出し、当事者の視点を設定し、観察者の体験・感覚によって、観察した結果を得る過程である。設定された空間において、存在する事象から個別・具体的な個体を抽出し、「イマ」「ココ」に現出する事態を表す。

“一朵紅紅的花”は、空間に存在する事象が固定され、観察者の感覚（視覚）を通して、状態・性状を表す。

- 21) 賈璉聽如此說，又見鳳姐兒站在那邊，也不盛妝，哭的眼睛腫著，也不施脂粉，黃黃臉兒，比往常更覺可憐可愛。（第 44 回 :p.594）（例 12）の再掲）

例 21) では、事象は賈母の部屋に発生し、鳳姐の泣いた容貌を描写する。空間が賈母の部屋に設定され、空間に存在する主体（立ち合いの人々）も設定される。観察者は賈璉であり、観察対象は鳳姐である。観察者は、この部屋の空間における事象に参加する。“黃黃臉”は、その場面、その時の鳳姐の泣いた容貌を描写する。個別的具体性を有し、形容詞重畳式“黃黃”を通して表現される。“黃黃臉”は、立ち合っているすべての人の認知が同じという事ではなく、賈璉の個人の認知結果を表す。ある性状は観察者によって相違点があり、異なる形容詞重畳式を選択する。

性質形容詞から状態形容詞へのプロセスは類の概念から個を分離させる過程である。この過程は空間化を設定するかどうか、空間に存在する主体と観察者と観察対象の関係によって進展する。形容詞重畳式は個体化の文法的手段の一つとして用いられ、その動機付けは、個別化にあると言えよう。

- 22) 王夫人和邢夫人在地下高桌上坐著，外面幾席是他姊妹們坐。（第44回：p.586）
- 9) 林之孝家的道：“他是園裡南角子上夜的，白日裡沒什麼事，所以姑娘不大相識。高高孤拐，大大的眼睛，最乾淨爽利的。”（第61回：p.840）

個体化 of 文法手段は重畳のほかに、数量詞、アスペクト助詞、介詞フレーズなどがある。“高桌”は、文脈をはずれば、類としての机を指す。例22)の“高桌”は、前の“在地下”の介詞フレーズと共起する。木村（1996:153）は、“在、从、到、往”について、「空間表現を導くことを基本的な働きとする類」と指摘している。介詞フレーズという文法的手段を用いて、空間に位置づけ、“邢夫人”“王夫人”が座っている机を指す。これに対して、例9)では、“高高孤拐”で描写する人がその場に存在していないが、話者は体験によって、聞き手に観察対象の容貌を描写するために、形容詞重畳式の文法的手段を用いる。これは、脳内空間に想定し、架空の存在主体の状態を描写するからであると考えられる。

4.4 視点一「当事者事態関与型」と「傍観者事象観察型」

性質形容詞（類）と状態形容詞（個）の区別は、空間化の設定の有無を前提として扱うが、性質形容詞と状態形容詞にとって、観察者の視点はどのように位置づけられるか。

空間化を設定するからには、空間と観察者の位置は明確にすべきである。木村（2017:303）の「当事者現場立脚型」と「傍観者俯瞰型」の観点を応用して、視点から性質形容詞と状態形容詞を比較することにしたい。木村（2017:303-304）は、「出来事を発話時現在の〈いま〉に立脚した視点から捉えようとする指向が強い日本語話者は、空間についても、〈ここ〉あるいは〈そこ〉という〈現場〉に自らが立脚し、当事者としての視点で対象を捉えようとします。このような日本語話者のパースペクティブを、ここでは『当事者現場立脚型』のパースペクティブと呼ぶにします。」と指摘している。また、「当事者現場立脚型」と対照的に、木村（2017:306）は、「“东南西北”という絶対方位の席標で対象を捉えようとするパースペクティブは、現場に立脚する当事者としてのそれとは対照に、俯瞰的な視野をもち、対象からやや距離を置いた傍観的なスタンスで対象を捉えようとするパースペクティブだと言えます。言うならば『傍観者俯瞰型』のパースペクティブです。」と指摘している。

類別としての「性質形容詞+名詞」は、たとえば、“黄酒”“紅紙”などは、ある一つの類を表すが、空間化が設定されないため、話者は空間に入ることができなくて、傍観者として、遠くから観察するしかなく、参与できない。したがって、だれが見ても共通点があり、「東南西北」のような絶対的空間表現と同じく、傍観者の視点から、性質形容詞が修飾する名詞を把握するため、これを「傍観者事象観察型」と称する。

性質形容詞に対して、状態形容詞は観察者の視点によって、異なる性質があることは、「前後・左右・上下」のような相対的空間表現と同じであり、現場立脚型と見なされる。状態形容詞は、空間化を設定し、話者が空間に入って、個体的事物を観察する。観察者は当事者として、自身の視点に基づき、状態形容詞、特に形容詞重畳式の文法的手段を用い、存在主体の性状を描写する。観察者は、参与者の視点に基づき、異なる語彙を選択する。たとえば、“紅紅的花”のほかに、“紅艷艷的花”なども使用できる。観察者として、現場の事態に参加して把握することで、「臨場感」がもたらされ、これを「当事者事態関与型」と称する。

「当事者事態関与型」というのは、観察者は現場に立脚し、それぞれ視点の異なりによって、言語表現も異なる。言語化すれば、観察者によって異なる形容詞重畳式が選択されることから明らかである。以下に、『紅樓夢』における例文を具体的に説明してみよう。

- 23) 好一似食盡鳥投林，落了片白茫茫大地真乾淨！（第5回：p.86）
- 24) 如此親朋你來我去，也不能勝數。只這四十九日，寧國府街上一條白漫漫人來人往，花簇簇官去官來。（第13回：p.175）
- 25) 大門上門燈朗掛，兩邊一色戳燈，照如白晝，白汪汪穿孝僕從兩邊侍立。請車至正門上，小廡等退去，眾媳婦上來揭起車簾。（第14回：p.184例17）の再掲）
- 26) 賈政還欲前走，只見白茫茫一片曠野，並無一人。（第120回：p.1592）

例23)から例26)まで、すべて「白」の意味を表し、異なる形容詞重畳式を使用する原因は、修飾する対象と観察者の視点に関わりがある。胡春艷ほか（2022:6）で解釈したように、『『白茫茫』は、「大地」「曠野」を修飾し、観察者の視点は、地面に近く、雲、霧、水などが白く一面に広がっているさま、ぼんやりとした感じを表す。』と指摘している。

例24)では、観察者は出現していなくても、立脚する位置を想定できる。“寧國府街”に立ち、近くから遠くまでの広い視点で認知する。この街を空間として設定し、観察者の視点は街頭に立脚し、白の喪服を着る人が多数、行き来する場面を認知し、「白漫漫」を用いる。

例25)の「白汪汪」は、鳳姐の観察により、正門から奥に入ってくる視点の移動を通しての描写であり、胡春艷ほか（2022c：137）は「両側の提灯が昼のように照り映え、喪服を着用した従僕たちに反射するさまは、あたかも水面に反射したかのような視覚的な印象になる。」と指摘するように、外から奥までの視点の移動を表す。

例26)では、観察者は賈政であり、僧侶と道士に挟まれる賈宝玉と出会う場面である。賈政の視点をその場面に置き、周りの荒野はぼんやりとした非現実的で幻想的

な光景であることを述べる。「廬山の真面目を識らざるは、只身のこの山中に在るに緑る」と共通する視点の置き方である。空間の真ん中に視点を置いて観察した結果である。

性質形容詞と状態形容詞の認知は、空間化することを前提として、観察者の視点も異なり、前者は知識に基づき、非体験の「傍観者事象観察型」と称し、後者は体験・感覚に基づき、体験の「当事者事態関与型」と称す。後者は、当事者の立脚する位置によって視点が異なり、言語化すれば、異なる形容詞重畳式を選択することに表われる。

5. 終わりに

本稿は、『紅樓夢』前八十回における形容詞重畳式と基式を比較し、意味の面で、分離のタイプ、融合のタイプ、包含のタイプに分けられる。形容詞重畳式は文成分で連用修飾語として多用され、基式の性質形容詞は特定の傾向がない。両者が修飾する名詞のコロケーションについて、状態形容詞は“的”と共起することが必須ではなく、現代中国語と一致してない。文法的意味からは限定と描写を区別する。この原因は、性質形容詞は類名を表し、状態形容詞は個性を表すと考えられるからである。以上の区別について、空間化の仮説を応用し、説明を試みた。

性質形容詞と状態形容詞の区別は、空間化の設定によって決められる。性質形容詞の類から状態形容詞の個へのプロセスは、空間化の設定から、観察者の設定と観察対象の関係によって決められる。視点からは性質形容詞は「当事者事態関与型」であり、状態形容詞は「傍観者事象観察型」である。

付記

本稿は、2020年黒龍江省屬本科高校基本科研業務費東北石油大學引導性創新基金—藝體外專項「中日形容詞重疊式的對比研究—以《紅樓夢》為中心」（課題番号：2020YTW-W-04、研究代表者：胡春艷）、2021年度黒龍江省哲學社會科學研究規劃項目「基於概念場的漢語身體位移動詞歷時演變與其共時分佈研究」（課題番号：21JYB159、研究代表者：李永春）の助成を受けている。

謝辞

本稿の掲載に当たっては『語学教育研究論叢 第40号』の査読委員の先生方から多くの助言を仰ぐことが出来た。謹んで感謝申し上げる。本稿の誤りなどはすべて筆者の責任に帰されるものである。

引用書目

- (前八十回) 曹雪芹著(後四十回) 無名氏續 程偉元 高鶚整理 (2008)《紅樓夢》人民文學出版社
(清) 曹雪芹著 (2010)《紅樓夢古抄本叢刊》《脂硯齋重評石頭記》庚辰本 (1-4) 人民文學出版社。

参考文献

日本語文献

- 池上嘉彦 (2008) 「<主観的把握>——認知言語学から見た日本語話者の一側面」昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究 (3), pp.1-6.
伊藤さとみ (2001) 「『白鞋』と『雪白一双鞋』」『中国語学』(248), pp.244-258.
大島吉郎 (2021) 「中国語における「状態」についての試論——「状態」をどう規定するか」『中国言語文化学研究』第 10 号, pp.11-31.
木村英樹 (1996) 『中国語ははじめの一步』筑摩書房。
木村英樹 (2017) 『中国語ははじめの一步』筑摩書房。
山梨正明 (2012) 『認知意味論研究』研究社。
胡春艷 (2021a) 「『紅樓夢』前八十回における形容詞重畳式について—AA 型を中心に」『外国語学会誌』No50, pp.24-34.
胡春艷 (2021b) 「『紅樓夢』前八十回における形容詞重畳式について—ABB 型を中心に」『外国語学研究』No23, pp.49-57.
胡春艷 (2021c) 「AA 型形容詞重畳式とその日本語訳の対照研究——『紅樓夢』前八十回を中心に」2021 年 7 月 25 日大東文化大学第 21 回学術シンポジウムレジュメ。
胡春艷 (2022a) 「『紅樓夢』前八十回における形容詞重畳式について—AABB 型と AABB 型を中心に」『外国語学会誌』No51, pp.162-172.
胡春艷 (2022b) 「『紅樓夢』における形容詞重畳式と“的”の共起について」2022 年 5 月 14 日 日中対照言語学会第 46 回大会及び 2022 年日中対照言語研究国際シンポジウム大会プログラムレジュメ。
胡春艷 李永春 (2022c) 「『紅樓夢』前八十回と後四十回の比較研究—形容詞重畳式を中心に」『中国言語文化学研究』第 11 号, pp.131 - 141.
野田耕司 (2017) 「結果を表す形容詞状語文と重ね型形容詞:事象の個別具体性の観点から」『文学・言語学論集』熊本学園大学 第 23 巻第 1-2 合併号, pp1-46.
- ### 中国語文献
- 陸儉明 (2001) 〈中國語語法教學中需關注的語義現象〉『中國語學』No.248, pp1-16.
李勁榮 (2014) 《現代漢語形容詞生動形式的語用價值》中國社會科學出版社。
呂叔湘 (1942/2002) 《呂叔湘全集第 1 卷 中國文法要略》遼寧教育出版社。
李宇明 (2000a) 〈漢語複疊類型綜述〉漢語重疊問題國際研討會口頭發表 邢福義主編 (2009) 《漢語重疊問題》華中語學論庫 (第二輯) 華中師範大學出版社。
—— (2000b) 《漢語量範疇研究》華中師範大學出版社。
沈家煊 (2015) 〈漢語詞類的主觀性〉《外語教學與研究》5, pp643-658.

石録（2010）《漢語形容詞重疊形式的歷史發展》商務印書館。

汪維懋（1999）《漢語重言詞詞典》軍事誼文出版社

王力（1943/1985）《中國現代語法》商務印書館。

——主編（2000）《王力古漢語字典》中華書局。

朱德熙（1956/1999）〈現代漢語形容詞研究〉《朱德熙文集》第二卷 商務印書館。

周汝昌 晁繼周主編（2019）《新編紅樓夢辭典》商務印書館。